



車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

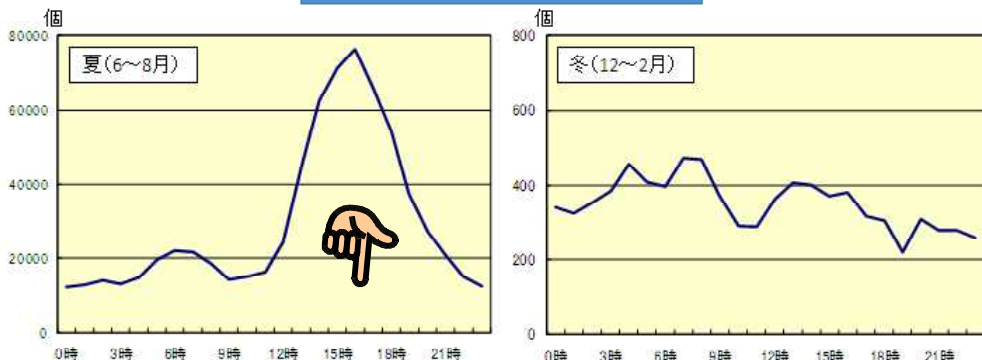
[平成30年6月号③]

梅雨です。紫陽花の色が鮮やか! **《重点目標》『品格を高め、目標に向かってねばり強く取り組もう』**

『皆さんで 特に7月、8月雷の事故に注意!』 (気象庁より)

夏の雷について時刻ごとの検知数を比較すると、夏は午後から夕方にかけて明瞭なピークを持ちます。また、夏は、日中の強い日射によって暖められた地面付近の空気が上昇し、背の高い積乱雲となって雷を発生させます。夏の雷は、広範囲に発生し長時間継続する特徴があります。

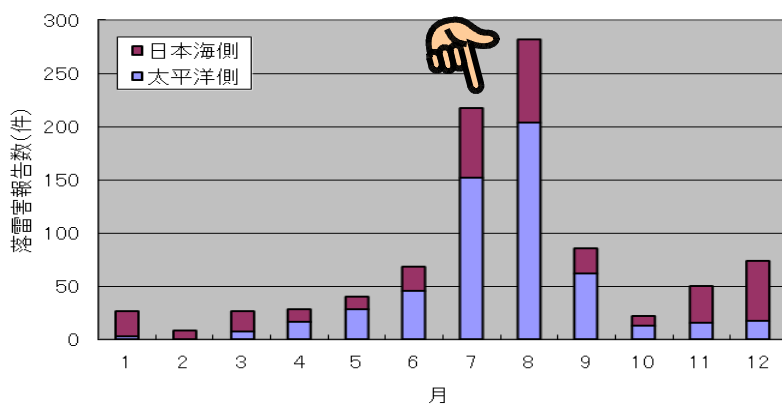
時刻ごとの対地放電(落雷)検知数



2006年~2008年の合計。夏(6~8月)は、全国を集計。冬(12~2月)は、東北から北陸地方にかけての日本海側を集計。

2005年~2011年の7年間に気象官署から報告のあった落雷害の数は、932件でした。落雷害のうち約30% (282件)が、右グラフの8月に集中しています。また、発生地域の特徴を見ると、太平洋側で約60%、日本海側約40%が発生しています。月別に見ると、4月~10月は太平洋側で多く、11月~3月は日本海側で多いことがわかります。

落雷害の報告数(2005年~2011年)



★雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるとき→速やかに安全な場所へ避難

○雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- 自分のいる場所にいつ落雷してもおかしくありません。

○建物の中や自動車へ避難

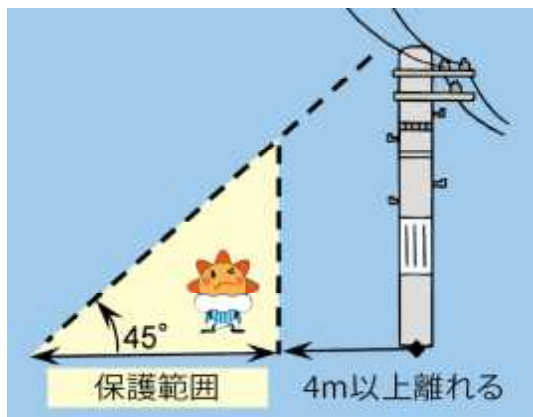
- 建物や屋根付きの乗り物(自動車)へ避難しましょう。

○木の下は大変危険

- 木のそばにいますと、木に落ちた雷が人に飛び移ることがあります。木の下での雨宿りは大変危険です。

○木や電柱から4m以上離れる

- 雷が飛び移る恐れがありますので、木や電柱から4m以上離れてください。右の図の三角の範囲内は比較的危険は小さいですが、なるべく早く建物や自動車の中に避難しましょう。



右図「雷から身を守るには」(日本大気電気学会編集)から引用

○雷鳴が聞こえた場合、外の部活は活動を中止させ、室内に入るよう注意しております。生徒の皆さんも指示待ちをせず、自ら判断して速やかな退避をしましょう。